

研究タイトル	温州みかん廃棄物の有効利用法
研究カテゴリー	環境工学
学校名	長崎県立諫早農業高等学校
都道府県	長崎県
研究者氏名	濱崎 莉未 森 凧沙 水口 喬太
研究者(代表者)学年	3年(高校・高専)

### 研究の要約

<p>1 目的</p> <p>長崎県は温州みかんの栽培が大変盛んでその生産量は年間 53,500 t, 全国第 5 位を誇る。しかし, その裏側で規格外品として廃棄されるものが約 20%を占め, ジュースや缶詰に使用されている。地元の果汁工場で研修した際, 果皮や絞り滓が大量に生じ, その処分に莫大な費用がかかることを知った。そこで, この産業廃棄物を有効活用できれば環境問題に配慮できると考えた。さらに, 規格外温州みかんに付加価値を付けることができれば農業生産者の手助けになると考えた。</p> <p>2 研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 温州みかん廃棄物の菌床栽培法</li> <li>2) 温州みかん廃棄物成分の菌床栽培法</li> <li>3) 規格外温州みかんの有効利用法</li> </ol> <p>3 結果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 温州みかん廃棄物の菌床栽培法は技術的に確立できた。</li> <li>2) 温州みかん廃棄物成分の菌床栽培法は検証実験にて立証され, 現在特許審査中である。</li> <li>3) 規格外温州みかんを有効利用するため, 地元の伝統菓子「諫早おこし」とコラボさせ, 「みかんおこし」を商品化させた。</li> </ol> <p>4 結論</p> <p>今回の成果として期待できることは, 長崎県内の温州みかん廃棄物年間約 13t, 規格外みかんの約 120kg, おこし販売量年間 10,000 箱の消費拡大が見込め, 地元農家や産業の活性化に大きく貢献できることが期待できる。</p> <p>5 今後の展望</p> <p>今後は地域の方々と積極的に連携し, 全国へ向けて PR 活動すると共に, 長崎県から全国への普及活動そして, 多くの農業生産者の手助けとなるように研究を進めていきたい。</p> <p><b>【事務局案内】</b> レポートの表紙を添付し忘れたため最初から本文に入ることとなります。</p>
--

### ●確認事項

研究に用いているもの (人間、脊椎動物、微生物、組み換えDNA、細胞組織、どれも用いていない)	微生物
大学・研究機関などでの実験や装置使用があるか	はい
昨年までの研究からの継続研究か	はい